第４章　人　間　（その尊さ→罪→回復）

この章のテーマ

１．人間とは何か、人生の目的とは何か、を理解します。
２．ａ私は、神様に似せて造られた尊い存在であるということ
　　ｂしかし罪によってその尊さを破壊してしまったということ
　　ｃイエス様によって再びその尊さを回復できた、ことを知ります。

■〔神に似せて造られた人の尊さ　Ⅰ〕人は霊的存在である

あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、その頃はそれらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威をもつ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って歩んでいました。
私たちも皆、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、他の人達と同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。
しかし、憐れみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛の故に、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストと共に生かしーあなたがたが救われたのはただ恵みによるのでーキリスト・イエスにおいて、共によみがえらせ、共に天の所に座らせて（＝神の子どもとして）くださいました。　（エペソ２：１－６）

■〔神に似せて造られた人の尊さ　Ⅱ〕人は愛の関係の中で生きるものである

そして神は、「我々に似るように、我々のかたちに人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう」と仰せられた。神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し男と女とに彼らを創造された。　（創世記１：２６．２７）

■〔人生の目的〕　三つの愛

イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」
（マルコ１２：２９－３１）

■人間とは…
一体、人間とは何なのでしょうか？
人間の尊さはどこにあるのでしょうか？
そして、生きる目的は何なのでしょうか？
哲学は長い間それらを求めてきましたが、
イエス様はそれらの根本的な問いに答えておられます。
ごいっしょにそれらの大切な事柄について考えてみましょう。

【あなたは誰？】

あなたは神様の子どもとして造られ、神様（親）から愛されています。 ←これとても大事です

【人生の目的は、三つの愛に生きること】

⓪

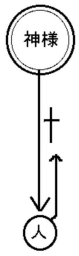
神様の愛を受けた私たちは三つの愛に生きて行きます。

人は、神様の愛を受けて３つの愛に生きる時、幸せを得ることができます。

0. はじまり.　神様は、私を愛してくださっています。

その愛は、イエス様の十字架(歴史的事実)に明白に現されました。

①

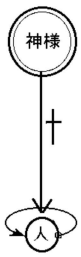


1.その神様の愛を深く知れば知るほど、その愛に応えて神様に「ありがとう」と感謝したくなりますね。

神様を礼拝し、祈り、讃美したいと思うのです。

これが「神を愛する」ということです。

②



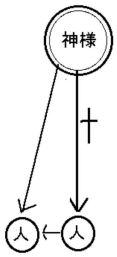
2.イエス様の生涯を知るにつれて、「自分が罪深く、神様にはふさわしくない」と思われるようになるかもしれません。あるいは自己嫌悪に陥ることもあるかもしれません。しかしそんな私を神様は愛し、大切に思ってくださっているのです。

神様の目から自分を見た時、この私も貴重な存在であることがわかります。

ですから、私は自分を大切にしたいと思うのです。

それが「自分を愛する」ということです。

③



3.神様は、私を愛してくださったように、私の周りの人々をも愛してくださっています。私は神様の愛に応えて、その人々を愛し、その人々のために祈ります。

それが「隣人を愛する」ということです。

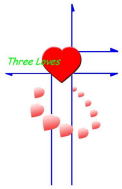
イエス様は、旧約聖書をこの三つの愛にまとめられました。

三つの愛とは、神様の愛に応えて…

1.神様を愛する。

2.自分を愛する。

3.隣人を愛する。　　ことです。



【罪】すべての人は罪を犯しました。
その結果、神の子どもとして生きることができないばかりか、絶望的な存在となってしまったのです。罪について少し考えてみましょう。

■罪とは何でしょうか？
そうですね。２－１ページで見ましたね。
罪とは、神様に造られ、神様に愛され、神様から命を与えられている私であるのに、
その神様に背を向け、神様の愛と赦しを拒み続ける生き様のことです。罪の結果、悪い思いが心の中に生まれ、具体的に悪い行為や的外れな生き方(生きる目的や価値、本当の命を失う生き方)をしてしまいます。罪は、神様との交わりに断絶(霊的･肉体的死)をもたらします。

■最初の罪

最初の罪については、創世記３章に書かれています。
最初の人アダムとエバは、神様のようになろうとしたのです。
あなたの中にはそのような思いはありませんか？
その結果、人は以下のような中心的なものを失ってしまいました。
☆神様との交わり　(神様は命の源です。その神様との交わりから離れる事は死を意味します。)
☆神の子としての人生　(人は神様から愛され、神様の祝福を受ける存在として造られました 。しかし罪の結果、その生き方ができなくなりました。)
☆神の子としての特性　(人は神に似せて造られました。つまり、霊的存在であり、愛し合って生きる存在として造られました。しかし人の霊はその働きを失い、人々は本当には愛し合うことができなくなり、自己中心に生きるようになりました。)
☆永遠の命　(人は神様と共に永遠に生きる希望と喜びを持った存在として造られました。しかし罪を犯し、神さまとの関係は切れました。希望と生きがいを失いました。)
☆人間の自由　(何をしてもよいということが自由ではありません。それは欲望の奴隷です。人は自分の存在の境界線(神ではない人の生き方)をわきまえてこそ自由なのです。空の鳥が空気の中で自由に飛ぶことができる、海の魚が水の中で自由に泳ぐことができるのと似ています。そして人は神様との愛の関係の中で自由を感じることができるのです。愛し合う夫婦が自由を感じ成長し合うのと似ていますね。しかしその自由を失い、人は孤立しました。)
☆本当の交わり(神様との交わりを失った人類は、夫婦の本当の交わりを失い、家庭の本当の交わりを失い、社会の本当の交わりを失いました。ですから、人は寂しいと感じます。満たされないと感じます。目的がないと感じます。惰性で生きていると感じます。夫婦や家庭や社会は問題が山積みとなりました。自分の人生を喜んで生きてゆくことがとても難しくなりました。)

■罪の結果として、人はこのような問題を抱えています。
□自慢　□劣等感　□怒り　□神様や人々に感謝できない
□いじめ　□赦せない心　□憎しみ
□金銭からの束縛感　□快楽主義　□不安・恐れからの不自由感
□落ち込み　□空しさ　□偶像礼拝
□占いやオカルトに関わる　□暴力

【人間の尊さ→罪→回復】

さて、罪について考えましたので、次に人間の尊さ、罪、回復についてご一緒に考えましょう。

神様は、人を三位一体の神の像に創造されました。
この章の最初に読みました聖書の言葉から、人を神の像に創造されたという事を…

〔Ⅰ〕人は…霊的存在である
〔Ⅱ〕人は…愛の交わりの中で生きるものである

という二つの意味に分け、〔Ⅰ〕と〔Ⅱ〕の*それぞれについて*、神の像という視点から、以下

a) 人間の尊さ
b) 人間が罪を犯したために、神の像を破壊してしまったという事
c) イエスキリストにより、再び神の像を回復することができるという事

を考えることにいたしましょう。

では、まず神の像の意味〔Ⅰ〕「人は…霊的存在である」という視点から、
a)人間の尊厳　b)罪による神の像の破壊　c)イエス様による神の像の回復
を考えてみましょう。

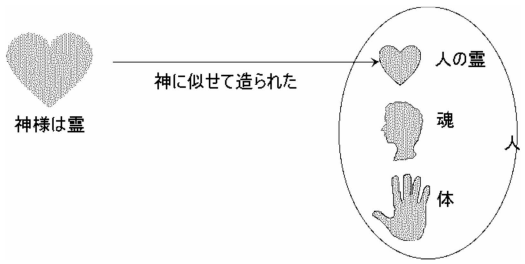
【a,人間の尊さは、霊にあります】

神様が霊であるように、それに似せて人にも霊の部分 が与えられました。

霊は…神様を礼拝する、讃美する、聖書を読む、祈る、など神様との交わりのため、全ての人にこの部分が備えられています。その他、霊は神様がそうであられるように、いろいろなものを造り出す創造的力をもっています。

魂は…知性・感情・意志を受け持つ部分です。本来、人は霊において神様との交わりをし、その影響の下で魂を働かせるものとして造られました。

体は…見える世界に関わる部分です。霊における神様との交わりの下で魂が正しく働き、その下で体が善い働きをするようにと造られました。



*聖書は人を統合体として見ていますが、ここではあえて分けて考えさせていただきます。(例　1テサロニケ5:23)

【b,罪の結果、人の霊は神様との関係において死んでしまいました】

しかし人が神様に反逆した時から、神様との交わりは断絶してしまいました。つまり人の霊は、神様との関係において死んだ のです。

霊という部分を持ってはいますが、神様との交わりという霊の最も大切な働きは死んでしまいました。霊→魂→体という秩序は混乱してしまいました。そのため、「人類の幸せのために」と考えて造り出した物もそれが不幸を生む原因になったりするのです。人は罪人となり、この世界に混乱を生む原因となってしまいました。

注）　聖書において、神様との関係の断絶を「死」と呼びます。霊的な死の当然の結果として肉体の死も生じました。(参:ルカ１５:２４)

【c,キリストによってあなたと神様との関係は回復しました=霊の復活=人の新生】

そのように罪と死の中に奴隷となっていた私たちを救い出すためにイエスキリストが来てくださいました。右下図をご覧下さい。

A：イエス様は…神から人への和解をなして下さいました：全ての人に対して十字架の死によって人を赦す愛の神として和解を成し遂げて下さいました。　[全き神]

B：イエス様は…人から神への和解をなして下さいました：父なる神様に対して十字架の死に至るまで従順を通された罪の無い全き人、そして全人類の代表として和解を成し遂げて下さいました。　[全き人]

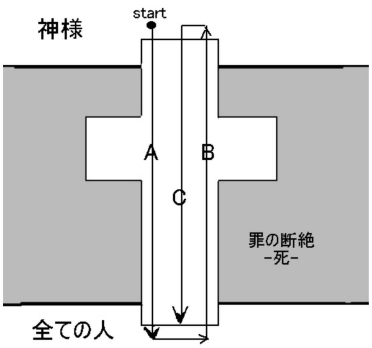
C：その結果和解がなり、聖霊なる神様は私達の助け主としてつかわされました。

(*聖書の中に、イエス様が「神様」と書かれている個所と「人間」と書かれている個所があるのは、AとBをそれぞれに表現しているためです。)

イエス様は、言われています。

私が道であり、真理であり、命なのです。
私を通してでなければ誰ひとり父の
みもとに来ることはありません。

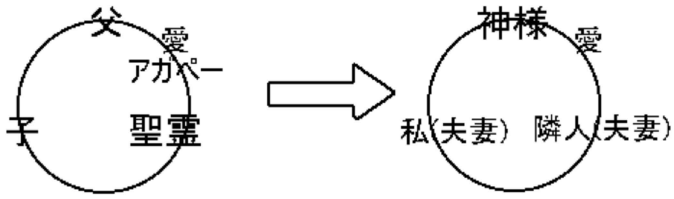
イエス様の十字架によって、神様と全ての人との交わりは回復されました。つまり、人の罪によって死んでいた神様と人との交わり（霊の働き）は回復されました。　*(神の像(Ⅰ)の回復)*



次に、神の像(かたち)の意味〔Ⅱ〕「人は…愛の交わりに生きるものである」という視点から、
a)人間の尊厳　b)罪による神の像(かたち)の破壊　c)イエス様による神の像の回復を考えてみましょう。

【a,人間の尊さ】

神様は三位一体の方で、その中には完全な『愛』の関係が成立しています。その神様に似せて、人も三位一体の『愛』の関係* で生きることができるように創造されました。



【b,罪=交わりの破壊】

しかし、罪を犯して神様との交わりを破壊した人類は、
同時に隣人との愛の交わりをも失ってしまいました。
なぜなら、愛は神様から知らされ受けるものだからです。
人は孤立、孤独、自己中心へと落ちてゆきました。
アダムは、「この人こそ私自身」と大切にしていた妻エバに
対して、罪を犯してからは「これが私に罪を犯させた」
と言うようになりました。

【c,交わりの回復】

しかし、イエスキリストによって神様と私との和解が
なった時、愛は聖霊を通して私に与えられ、隣人に与えられます。
再び愛による交わり(神の像)が回復し始めるのです。

(神の像(2)の回復)

(愛の交わりの証としてのセルグループ→)

*結婚式で、新郎と新婦が十字架の正面に立つのは、このことをよく表しています。

■ここでコーヒーブレイク
～ヒューマニズム(人間主義)という罪～　ご自分でお読みください

鉛筆くんと消しゴムくんが自慢し合っていました。
鉛筆くんが言いました。「僕は背が高いんだけど、君は小さいなァ。」
消しゴムくんは言いました。「君はずいぶん黒いんだねえ。僕を見てくれよ。真っ白なんだよ。」
鉛筆くんが言いました。「僕は芯が通った生き方をしているんだ。」
消しゴムくんが言いました。「黒い芯が通っているんだろう？　要するに内と外を使い分けているわけだ。僕は正直に生きてるよ。内も外も真っ白なんだ。」
…自分の価値、自分の人生の目的を知らないと、こんなことになってしまいます。
鉛筆くんも、消しゴムくんも、自分で自分の価値や目的を見出すことは出来ません。
誰が鉛筆くんと消しゴムくんの価値・目的を知っているのでしょうか？
　それは、鉛筆と消しゴムを作った人間なのです。
そして人間は、鉛筆と消しゴムを比べることをいたしません。
人間は、鉛筆にも消しゴムにも、両方それぞれに価値があることを知っています。
書くために鉛筆を使い、消すために消しゴムを使うのです。
鉛筆の目的は書くということ。そして消しゴムの目的は消すということだからです。

　人間も同じですね。人とは何であるか？人の価値は何であるのか？
人生の目的はどこにあるのか？人はどのように生きるべきであるのか？
人の幸せとは何であるのか？
それらを考える時の出発点は、人を造られた神様から始まらなければなりません。
神様から教わらなければ、わからないのです。
しかし神様を知らない人々は、自分を出発点にしてそれらを考えようとしてしまうのです。
ですから、わからないのです。

アダムとエバが罪を犯して以来、人は神様と無関係に生きようとしました。
人は自分中心になりました。人は自分を神様にしたのです。
その結果、迷いました。自分の価値も目的も見失ってしまったのです。
人間中心主義（ヒューマニズム）はそのような歴史を作ってきています。
今もその途上にあります。
キリスト教ヒューマニズムという思想もありますが、普通は人間を中心とする考えです。
１９３３年、ジョン・デューイを中心とするアメリカの３４人が「ヒューマニスト宣言」を採択しました。その内容は、唯一神の否定、人間による価値創造、進化主義、啓蒙主

義、現世主義でした。彼らは「理性と知性が最も効果的な手段である」、「いかなる神も我々を救うことはない。我々は自分で自分を救わなければならない」と宣言したのです。

唯一の神様を否定した人間は、自分が神であると宣言したのです。
その宣言文の中には自信が満ち溢れています。
「人間は理性で運命を切り開くことが出来る。科学と技術で自然をコントロールし、人類の問題をすべて解決し、平和な社会を築くことが出来る。人間の努力で、言語、人種、文化を超えて一つになることができる」と言っています。
でも現実はどうでしょうか？
神様と離れた人類は、理想とする社会を築くことは出来ませんでした。
むしろ、その罪の結果を刈り取っているという現状ではないでしょうか？
ヒューマニスト宣言が採択された２０世紀、人類は二つの世界大戦で人間同士で激しく殺し合い、数千万の人間が殺されました。
科学技術はほとんどすべての問題を解決できたでしょうか？
むしろ、人類をいつでも何回でも絶滅させることのできる核兵器を開発しました。
貧富の差は解決するどころかさらに拡大しています。
資源は無限ですか？　むしろ、核廃棄物や産業廃棄物は受け入れ先が見つからないで地上をさ迷っている状態です。
「人はすべての問題を解決できる」と言った人間ですが、むしろ人格や人間性の破壊が進んでいます。
犯罪の増加・薬物の乱用・人間性の破壊（人間の規格化・数値化・部品化）・環境破壊。
人の心は荒廃し、絶望と虚無が世界を包むようになりました。地球も悲鳴を上げています。
ヒューマニズムの理想と現実はまるで違いました。
出発点が違ったのです。今こそ、悔い改めなければなりません。
人の価値、人生の目的、生き方、幸せ、それは神様から教わらなければわかりません。
神様は言葉をもって、またイエスキリストという啓示をもって、私たちにそれを教えてくださいました。そして神様が教えてくださる人の価値、人生の目的、生き方、幸せは、ヒューマニズムの考えよりもはるかにまさってすばらしいものであるのです

マイルーツクラス
解　答　用　紙

マイルーツクラスの解答用紙です。

各章２枚ずつになっています。

できれば、マイルーツを学んだその日の内に解答用紙に書き込みください。

次回のマイルーツの最初に、答え合わせをいたします。

点数が問題なのではなく、分からない処をはっきりさせるためです。

その時に遠慮なく、質問もしてください。

名前

解答用紙　第４章　人間　　点

１．次のうち、正しいと思うものに〇印を、まちがいと思われるものに×印をつけてください。　（各４点、４０点）

□　私たちは神様の子どもとして造られ、神さまから愛されています。
□　人は三つの愛に生きても、幸せを得ることはできません。
□　罪とは、神様に造られ、愛され、命が与えられている私であるのに、その神様に背を群れ、神様の愛と赦しを拒み続ける生き方のことです。
□　罪は、神さまとの交わりに断絶（死）をもたらします。
□　罪のゆえに、人は神様との親しい交わりを失いました。
□　人は、神の像（かたち）に造られたということは、父なる神にも、人間のような耳や目や鼻があるということです。
□　人は霊的存在です。
□　人は愛の交わりの中で生きるものです。
□　人の霊は、神さまを礼拝し、賛美し、聖書を読むための特別な場所です。
□　人は罪を犯して神様との交わりを破壊しても、人間同士の交わりは壊されることがありませんでした。

２．次の文の、□の中に適当と思う字を入れてください。（□に一字ずつ）
（各１０点、６０点）

ａ）人生の目的は□□□□に生きることです。

ｂ）三つの愛のはじまり…　神様は、私を□してくださいました。
その□は、イエスさまの十字架（□□□□□）として現されました。

Ｃ）三つの愛は…

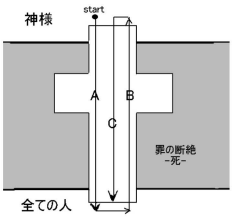
１．□を愛する
２．□□を愛する
３．□□を愛する　ということです。

d）イエスさまは言われています。

「私が□であり、□□であり、□なのです。私を通してでなければ、誰ひとり□のみもとに来ることはありません。」

e）イエスさまよって、神様と全ての人との交わりは回復されました。つまり、人の罪によって死んでいた神様と人との交わりは回復されました。

（神の像Ⅰ（人は□□□□である）の回復）



f）イエスキリストによって神さまと私との和解が成った時、愛は聖霊を通して私に与えられ、隣人に与えられます。

再び愛による交わり（神の像）が回復し始めるのです。

（神の像Ⅱ（人は□の□□□の中で生きるものである）の回復）

■何かご質問があればお書きください。

ホームページにいきます

http://midori.church.jp/

日本バプテスト連盟
緑の牧場キリスト教会（みどりのまきばきりすときょうかい）
広島県東広島市西条町田口２７９９
牧師　酒井敬仁

マイルーツをされた方、
よかったらご連絡ください。